

広島県教育賞奨励賞受賞の状況（過去5年間）

個人（学校教育）

年度	氏 名	所属及び職名	功 績 等
2023 令和5	橋 本 嘉 文	福山市立千田小学校 教諭	<p>川口小学校では、「学力向上チャレンジ校事業」「学力向上推進地域事業」の連携担当教員として、「自分の考えを持ち、豊かに表現する児童を育成する授業の創造」をテーマに研究を進めた。</p> <p>国語科では、単元で付きたい力を明確にし、単元を貫く言語活動を位置付けて、読む活動と書く活動を意図的に仕組んだ授業づくりに取り組んだ。積極的に取組を進め、学力向上に成果を上げるとともに、他校へ発信することで、本市国語科教育の推進に寄与した。</p> <p>千田小学校では、令和3年度に教科担任制の導入を発案し、教材研究の深まりなどの成果や時間割調整についての課題を整理し、次年度から本格的に実施するための準備を進めた。</p> <p>今年度は、個人の実践を記した「セルフマネジメントシート」を作成し、定期的に学年会で交流している。目標に対する自らの実践を目的に振り返り、日々の実践に生かす取組を進めることで、「失敗を恐れずに挑戦することができている」教職員が増えている。</p>
	伊 藤 直 也	福山市立誠之中学校 教諭	<p>幸千中学校では、生徒指導主事として、全ての教員が粘り強く生徒と向き合い、心に寄り添った指導を行うことができるように、生徒理解について校内研修を行うなど、生徒指導体制の確立を図った。</p> <p>誠之中学校では、登校しづらい生徒が自分のペースで学ぶことができる「きらりルーム」の担任として、生徒、保護者との面談等を通して、一人一人の状況と、その状況に至っている要因をアセスメントし、個に応じた支援を行っている。また、スクールカウンセラー等と連携し、不登校生徒支援、教育相談に関する研修を実施し、教職員の指導力の向上を図っている。</p> <p>令和4年度から、広島「不登校SSR推進校」として取組をさらに進め、所属校の大きな課題であった長期欠席者数が昨年度から減少しており、取組の成果を市内外へ発信した。</p>
2022 令和4	溝 部 良 子	福山市立東中学校 教諭	<p>ラウンドシステム先行実施校の担当教員として、授業の研究・実践に取り組んだ。子どもたちが生き生きと考え、関わり合う授業を目指し、一人一人の学習状況を丁寧に見取ること、機を逃さず個への支援や評価を行うことを意識した授業づくりを進めた。</p> <p>授業では、子どもたちに寄り添い、よく観察することで、子どもたちが悩み苦勞して「分かった」瞬間を見つけた時に、言葉や身振り、表情など様々な方法で肯定的評価のサインを送り、達成感や次への意欲につなげた。</p> <p>先行実施で得た研究成果を、市内一斉研修で他校の英語担当教員に伝え、市全体の英語科教育推進を牽引した。</p>

2021 令和3	志田原 聡美	福山市立久松台小学校 教諭	学年を超えた内容に触れるカリキュラムの作成や、発問、切り返し、視点を変える一言といった教師のファシリテーションスキルの向上などについて教職員間で協議しながら、研究を進めている。総合的な学習の時間では、3～6年の合同授業を実施するための校内行事等の調整、SDGs と関連付けたテーマ設定や探究の進め方についての校内研修実施など、カリキュラム編成・実施の中心的な役割を担っている。また、子どもたち1人1人の学びの様子や変化を丁寧に見取るために、ポートフォリオを活用した記録・ファイリングなど、評価の見直しを進めている。
	世良 幸子	福山市立新市中央中学校 教諭	令和元年度、民間企業と福山市教育委員会が共同で実施した教職員研修「21世紀型ティーチャーズプログラム」を受講した。研修では、教育の課題や未来、学びのメカニズムについて考え、他の受講者と学ぶことや教えることの本質的な意味を協議した。研修で学んだことは、現在の実践につながっている。令和3年度は、福山100NEN 教育推進協議会数学部会の北東ブロックリーダーを務め、自身の実践を市内に発信している。
2020 令和2	山田 賀子	福山市立南小学校 教諭	教務主任として「単元の学びの本質は何か」を問うことで「子ども主体の学び」を深める研究を中心となって推進した。特に学びの本質に向かうために、単元の導入を大事にした授業を実践することで、児童が単元で学ぶ内容や疑問点等を交流して明らかにするとともに、その後の学びにおいても児童の主体的に取り組む姿が見られる等の成果を上げた。
	渡邊 博之	福山市立松永中学校 教諭	研究主任及び道徳教育推進教師として、生徒が「分かった」「できた」を実感できる授業づくりを国語や道徳などの授業実践、校内研修の企画・運営などにより牽引しており、組織的な学校運営において中心的な役割を果たした。
2019 令和元	信岡 ゆかり	福山市立城南中学校 養護教諭	中学校区で実施するアンケートやデータ分析により、保健室固有の環境を活用した健康相談を実践するとともに、生徒・保護者や地域へ健康教育の大切さを啓発しながら取組を推進し、う歯・歯周病治療勧奨等の歯科保健の取組において成果を上げるとともに、本県の保健指導の充実に貢献した。
	箱田 淳子	福山市立千年中学校 教諭	「学びの変革」パイロット校事業のパイロット教員として、関わり合いを通して思考力・判断力・表現力を育む授業づくりに取り組むとともに、数学と生活を結び付けた自作問題の作成や自らの多様な実践に基づく的確な指導・助言等により、本県の授業改善の推進に大きく貢献した。

団体（学校教育）

年度	団体名	功績等
2022 令和4	福山市立藤江小学校 校長 池澤 香緒里	<p>児童にとって必要感のある学びの創造を目指し、児童の認知を培う要因に対し科学的なアセスメントを図り、ICT等を効果的に用いた授業づくりについて継続的に研究に取り組んでいる。</p> <p>平成30年からは、ユネスコスクールの認定を受け、生活科・総合的な学習の時間における児童の課題意識を起点とした学習活動を柱に、地域理解に関わる学習や自己の生き方に関わる学習を行っている。地域探検や伝統産業、防災、歴史等について、フィールドワークや見学、聞き取り等で調べたことを、児童がリーフレット等にまとめ、校内、保護者、地域等に発信している。</p> <p>令和4年度広島県連合小学校長会教育研究大会では、児童の姿を中心に据えて学び合う研修の具体として実践発表を行った。</p>
2021 令和3	福山市立鞆の浦学園 校長 宇根 一成	<p>令和2年度から福山市の「教科・学年の枠を超えた教育課程の編成・実施パイロット校」の指定を受け、「子ども主体の学び」づくりに取り組んできた。学校独自の教科「鞆学」では、地域課題の解決やSDGsの達成に向けたテーマに取り組み、鞆学プロボノメンバー（地域の専門家）による出前授業や校外活動を実施するとともに、「鞆学」を通して身に付けた課題発見・解決能力や情報活用能力などを教科の学習にも生かしている。</p>
2020 令和2	福山市立千年小学校 校長 岸本 千香子	<p>教科・学年の枠を超えた教育課程を編成し、児童が自分で「決める・選ぶ・考える」場を設定するなど、「子ども主体の学び」づくりを行っている。また、家庭学習の在り方を見直し、児童が自分に合ったやり方を選び、決めることができるよう改善を続けている。これまでの通知表による評価を見直し、自校作成のテストによる評価を行ったり、学習の過程が分かる個人のポートフォリオにまとめたりしている。</p>
	福山市立城東中学校 校長 羽原 靖明	<p>平成30年度から、生徒の新たな居場所として、「きらりルーム」を設置し、令和元年度からは、経済産業省の「未来の教室モデル校実証事業」の指定を受け、生徒一人一人の多様な学びを実現する場所となるように実践を行っている。企業が開発した「答えのない問いを協働的に解決する学習プログラム（探究学習プログラム）」を総合的な学習の時間に導入したり、EdTechやICT機器の活用を進めたりして、個に応じた学習に積極的に挑戦している。</p>

2019 令和元	福山市立今津小学校 校長 橋本 秀基	これまでの通知表による評価等を見直し、学習の過程と結果が分かる個人のポートフォリオを作成した。また、学期末には、個人のポートフォリオによる児童面談、保護者面談を行っている。総合的な学習の時間では、児童が自ら選択したテーマに基づき、異年齢による縦割りグループを編成して探究活動を行い、異なる視点で課題を設定したり積極的に考えを交流したりしている。
	福山市立鷹取中学校 校長 藤田 由美子	論理的思考を育成するために、ルーブリック評価、思考スキル・思考ツールの活用等を学習過程に位置付けた「鷹取中学校授業スタイル」を作成し、生徒が一人でも学びを深められるようにした。英語科において、教科書の内容を、リスニングや音読、リテリング等の活動ごとに5回以上繰り返して学習する方法を通して、生徒に自分の考えや気持ち、事実などを英語で表現する力の育成を図っている。